“Chikushi Forum of Environmental and Energy Sciences”
～寺岡靖剛教授メモリアルシンポジウム～ 報告

九州大学先導物質化学研究所・教授
永島 英夫

未来社会において、環境保全とエネルギーの効率的利用は豊かな文明を支える大事な要素となっています。

九州大学では、環境およびエネルギーに関わる材料、デバイス、システムの先端研究が活発に行われ、とくにGAではそれらの先端研究を活用した大学院教育に人文社会科学的要素を加味した総合科学教育が指向されています。

炭素資源国際教育研究センター、エネルギー基盤技術国際教育研究センターは、GAセンターと連携して活動していますが、その中の一環として、3センターが中心になり、シンクロトロン光利用研究センター、キャンパスアジアプログラム、総合理工学府とともに、表記の国際シンポジウムを、平成27年11月9日（金）に筑紫ホールで開催しました。このシンポジウムは、この3センターの立ち上げ、発展に尽力され、将来の九州大学の人材の柱と期待されながら、昨年7月に急逝された故寺岡靖剛教授のメモリアルシンポジウムと位置づけ、寺岡教授が活躍された触媒化学と放射光を用いる分析化学に関して、日本とアジアからの研究者を招待して行われました。

学内外の関連研究者が参加してくれたほか、同教授が力を尽くされたグローバルCOEプログラムやキャンパスアジアプログラムの関係研究者たちも駆けつけてくれました。

寺岡教授は、ペロブスカイトと呼ばれる無機酸化物材料の専門家でしたが、その先駆的な業績は、現在では環境触媒等幅広い応用研究に展開しています。また、グローバルCOEプログラムをきっかけに、アジアを中心とした多くの大学・研究機関と、教育研究両面での交流の中心人物として活動してこられました。

シンポジウム冒頭で、寺岡教授の先駆的な研究、および、国際活動についての解説があったのち、韓国、中国、インド、日本の研究者たちから、放射光を用いる先端解析技術を活用した研究を含む、無機酸化物を用いたエネルギーデバイスから環境触媒研究に至る、現在の最先端成果の発表が行われました。

また、午後からの1時間は、寺岡研究室で寺岡教授とともに研究成果を創出したスタッフ、卒業生による研究成果報告が行われました。終日、なごやかな雰囲気の中で活発な討論が続きました。

最終的に、多くのGAプログラムの学生を含むシンポジウムの参加者は合計123名となり、国際シンポジウムとして成功裏に終了しました。これをきっかけに、3センターでは、アジアと日本の研究者の環境・エネルギー研究に関するフォーラムを続けていく予定です。